



社会人とかマジめんどくさうってばよ！

「ゆとり世代」とは小中学校において2002年度、高等学校において2003年度に施行された、土日休みつすよ的なゆとり教育で育った世代を指すのだが。こんな「あるある世代本」を書いている私が言うのもなんだが、世代分けの被害者かも知ないと思わずにはいられない。「これだからゆとりは(呆れ)」。ゲシュタルト崩壊するくらいこのセリフを言われまくったのではないだろうか。

正直、「これだからゆとりは」という十把一絡げな言葉が、あまりにもボンヤリ使われている気がしないでもない。そもそもゆとりってどんなの？ざっと定義されがちな特徴を並べてみると「責任を持ちたくない」「コロコロ話が変わる」「好きな事は集中してやるけど興味がないと見向きもしない」「挑戦が苦手」「大人数は嫌いで1人が好き。」等。

でも独りは寂しい」「いきなりタメ語(馴れ馴れしい)」等。  
 うーむ、これだけ読んだら、ズバリ「扱いにくそう」の極み！ 散々な言われようではないか(汗)。言い返してええぞー、ゆとり世代。  
 とところが、これに対して「あ、俺のことだ(笑)」と素直に受け止める傾向が多くてビックリ。どちらかというと自虐的？ いやいや、「自分は人と違う」と自信を内に秘めている若者は多く、諦めと理想の両極端が垣間見える。

「人と違う」という特別意識は案外タテじゃなく、mixiなどのSNSが流行りはじめ、ネットで人脈を広げ仕事につなげるやり手も続出。冒頭の意味合いとは違う「これだからゆとりは(凄い!)」という評価ももちろんあるので、どんどん活躍してほしい。……と期待されると彼らには重荷なのか(汗)。うーむ、サジ加減が難しいわ！